

第 152 回 東葛しぜん観察会

我孫子のかくれた里山 岡発戸・都部に秋を求めて

鈴木 俊二（我孫子市）

日 時：2018 年 10 月 7 日（日） 10～12 時 天気：快晴

場 所：岡発戸・都部の谷津ミュージアム（我孫子市）

参加者：11 名（内子ども 1 名）、指導員 14 名、担当指導員：鈴木 米澤（阿部）

台風 25 号の影響で 10 月になつても未だ 30℃ を超える暑さの中、途中の水分補強を念頭に始まりました。我孫子市の谷津ミュージアムとは谷津の環境を再生し、伝統的な農業や暮らしの風景を復活させ、それをまるごと「野外博物館」としています。谷津ミュージアムの掲示板から 2 班に分かれて出発しました。水田が放棄されると植物の遷移がどうなるのか、それらを同時に見られる場所で「谷津の成り立ち」や「パイオニアツリー」を見ながら説明しました。その後、樹木では珍しい瑠璃色のきれいな実がなる大きなサワフタギの話、クリのトゲトゲの形を書いてもらい順調に進行していきました。

その後は参加した子どもを中心に進み、ヒイラギモクセイのいい匂いの中、道端のかわいらしい野草がたくさん出て来る場所で、子どもに捕虫網を渡して野草の中にいる虫を採集してもらいました。セセリ、カメムシ等、特に初めて手で触るクビキリギリスなど一生懸命でした。野草の中に糸を張るジョロウグモ、ナガコガネグモを観察し、ヌスピトハギ、キンミズヒキ、チジミザサでは「ひつきむし」を体験。圧巻はエノキの葉のアカボシゴマダラの幼虫を発見したので外来種の話をしました。マテバシイのドングリ（その後コナラ、アラカシを拾う）、ネムノキ、コブシ。落ちているコブシの実をひっぱり、実をむくと種がハート型、手のひらにのせるとインスタ映えする～と声があがりました。田んぼの復活を目指しているボランティア（谷津学校友の会）の方は 3 種の古代米と現代米の 1 種類を栽培していることで「お米の話」をしました。また、「ヘイケボタルの調査」や「ニホンアカガエルの卵塊調査」などここ 10 数年間の推移を報告して、保護活動に取り込んでいることを紹介しました。田んぼの雑草は米作者にとって厄介もの、4 つの雑草（デンジソウ、オモダカ、コナギ、ヒレタゴボウ）について説明しました。

ニホンアカガエルの保護区域で数匹のニホンアカガエルが出現、ゆっくり写真を写せるほどじっとしていて皆で見ることが出来ました。谷津の開けたところや電線やその他いたるところでモズの高鳴きが聞え、モズの写真を見せてモズの縄張り争いを体感し、モズに関することわざや「はやにえ」の写真を紹介しました。数週間前からアキアカネが飛来してきており、風が少なくなった谷津でアキアカネの群生が見られたので赤とんぼの話をしました。いつの間にか解散場所の作業小屋に着いていました。

観察会の組み立てで観察ポイントを作り、そこで資料を提示しながら説明するパターンでしたが、以外にサプライズがたくさん有り、自然観察は面白い。出たとこ勝負、これこそが自然観察の醍醐味でした。終了後の感想 ○ 小さな花に名前が付いている。○ こんなにいろいろな観察や体験したのは始めてです。

我孫子 GC に隣接する休耕田の里山の観察会

